



京都大学附属図書館ラーニング・コモンズにおける 学習支援活動および学習サポートデスクの利用状況



京都大学図書館機構講演会
「大学図書館における自学自修施設の整備と今後の活用
～ラーニングコモンズの評価と活用の方策～」

京都大学附属図書館
赤澤 久弥
akazawa.hisaya.5s@kyoto-u.ac.jp

2014.12.11



学習サポートデスクについて

■ 学習サポートデスク



■ 学習サポートデスクの概要

- 2013年10月：サービスイン
2014年 4月：ラーニング・コモンズへ移設
- 活動体制
 - ✓ 平日13時～19時
 - ✓ 大学院生スタッフ6名（うち2名留学生。当初は3名）
 - ✓ 日・英（＋各人母国語）
- 活動内容
 - ✓ 学習サポートデスクカウンターでの対応
 - ✓ 講習会講師，留学生オリエンテーションサポートの担当
 - ✓ Facebookによる広報やサポート情報の発信
 - ✓ その他（サポート資料や広報資料の作成，サポート用図書の選書）

■ 学習サポートデスク：構想前夜

- 「留学生図書館サービス改善のための実地調査」(平成24年度)
 - ✓ 留学生支援の強化を企図
 - ✓ 平成23年度中に学内経費要求案を作成。図書館員がタイ、ベトナム、インドネシアの大学図書館の訪問調査を実施
 - ✓ 留学生へのインタビュー調査を実施
- 予算要求へ
 - ✓ 調査を踏まえたアクションとして、平成24年度中に「留学生学習支援デスク事業」の学内経費要求案を作成

■ 学習サポートデスク：具体化へ

● 予算要求案のコンセプト

- ✓ 学習相談を中心とした個別的なサポートを行う。加えて講習会やガイド資料の作成等を職員と協働して実施する
- ✓ 多言語への展開を図る
- ✓ 学習サポートスタッフから学生ニーズを把握する
- ✓ 主として留学生を対象とする

● 予算化から開設準備

- ✓ 平成25年度の前期中に、スタッフの採用とトレーニングを実施
- ✓ ラーニング・コモンズオープン後の移設を見越し、場所は仮設

■ 学習サポートデスク：開設準備から運用へ

- スタッフの採用
 - ✓ 院生，日本語+英語もしくは他の言語能力を要件に募集
 - ✓ 附属図書館研究開発室教員との密接な連携(募集～面接)
- スタッフのトレーニング
 - ✓ 講義+実習，基本的に2日間
 - ✓ サービスポリシー～図書館の基礎知識～蔵書検索と文献入手，論文検索と電子リソース～アウトプット支援～ロールプレイ
- 運用体制
 - ✓ 参考調査掛が担当(勤務管理，協働企画の実施等)
 - ✓ MLで情報共有(業務報告等，スタッフおよび担当職員・教員間)
 - ✓ スタッフミーティング(半期に1回程度，活動総括と新規企画検討)

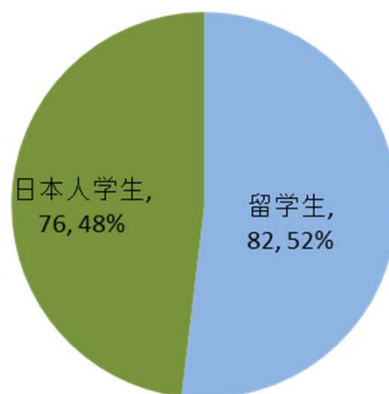
■ 学習サポートデスク：デスクサポートの利用状況

● 平成25年度

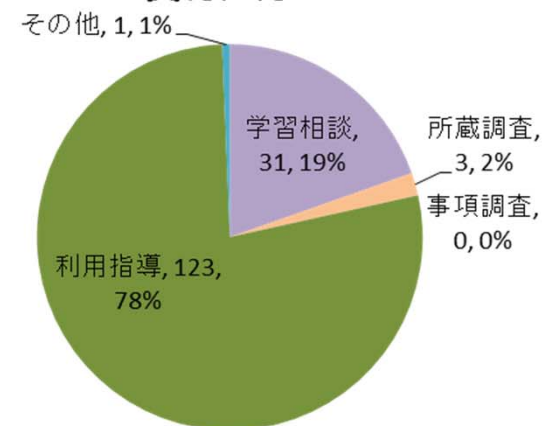
オープン日数

10月	21
11月	19
12月	19
1月	19
2月	18
3月	19
合計	115

学生分類



受付区分

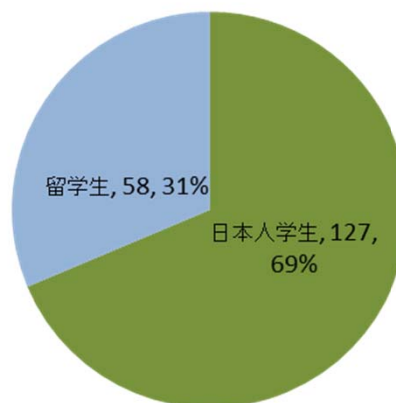


● 平成26年度

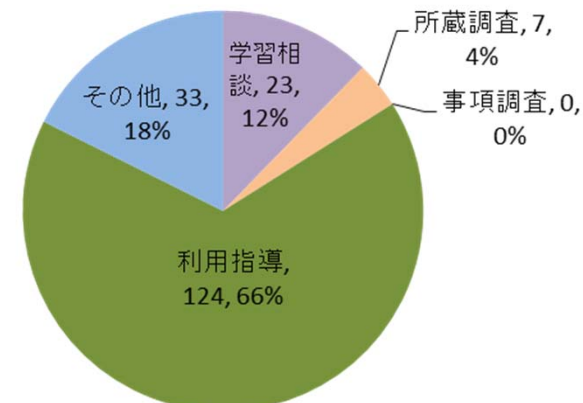
オープン日数

4月	20
5月	20
6月	20
7月	22
合計	82

学生分類



受付区分



■ 学習サポートデスク：デスクサポート以外の活動

- 講習会

- ✓ 「大学院生スタッフが語る とっておきの図書館活用法」 講師
- ✓ 留学生ガイダンスのサポート

- 広報

- ✓ 学習サポートデスクFacebook
- ✓ 掲示物の作成

- その他

- ✓ Facebook上のブックレビュー
- ✓ ラーニング・コモンズ配置図書を選書
- ✓ サポート資料の英訳
- ✓ 図書館への提言（館内環境等）



■ 広報活動の例



■ 学習サポートデスク：質問事例から

- ✓ TOEFLについて教えてほしいという方が来られました。
→図書館で借りられる参考書・問題集について紹介した後、私も受験経験があったのでどのような勉強をすればいいかなどお話ししました。
- ✓ 卒業論文を第三者にみてほしいという希望でした。
→学問分野が違うので、構成をみて意見を述べるに留めました。
- ✓ 卒業論文のデータ分析手法に関する問い合わせでした。
→決定木の生成方法を説明し、元々使いたかった方法にどのような欠点があるかを説明しました。
- ✓ 留学生が「源氏物語」の英語訳を探していました。
→KULINEの使い方を説明しながら一緒に探しました。書庫にある本を見つけて、書庫の使い方を案内しました。
- ✓ 公務員試験対策として政策関連のディスカッションをしたいとのことでした。
→私たちの役割と異なることから、サポートデスクの役割を伝え、また公共政策大学院の学生と話してみることを奨めました。

■ 学習サポートデスク：スタッフの視点

- ✓ KIZUNA(留学生支援ラウンジ)と連携できれば良い
- ✓ スタッフ個人を紹介するポスターを作るのはどうか
- ✓ 「どこまで尋ねて良いのか？」が学生には分からないようだ
- ✓ 1階のPCが蔵書検索専用と分からない学生が多いので案内を改善したほうがよい
- ✓ 英語でのガイド資料が少ない
- ✓ レポートの書き方本などをまとめたリストがあればよい
- ✓ サポートデスクスタッフがFacebookページを作成し、本の紹介をするのはどうか



■ 学習サポートデスクを巡る論点

- 学習サポートを巡るニーズの所在
- スタッフ学生にとっての意義・
図書館にとっての意義
- ラーニング・コモンズとの一体性



ラーニング・コモンズについて

■ ラーニング・コモンズ



■ 改修前の状況





■ ラーニング・コモンズの概要

- 2014年4月25日オープン(既存スペース改修)
- 設備
 - ✓ 附属図書館1階, 455m², 100人収容
 - ✓ 組替可能机, 木製机(既存), 椅子(4タイプ), 共用デスクトップPC, プロジェクタ(据置&貸出), スクリーン, 移動式ホワイトボード, 壁面大型ホワイトボード, 無線LAN, 電源コンセント, 壁面書架(既存), 木製造作物「クスノキ」
- 図書館員, 教員, 学生の協働によるプランニングと運用
- 学習サポートデスクの設置

■ ラーニング・コモンズ：構想前夜

- ゾーニング検討ワーキンググループ（平成24年度）
 - ✓ 館内複数部署メンバー及び研究開発室教員で構成
 - ✓ 既存のスペース構成と機能の見直しを企図
- 予算要求へ
 - ✓ 閲覧空間の「アクティブ／中間／静寂」3エリアへの再構成による教育環境整備をコンセプトに立案
 - ✓ これを踏まえ、「アクティブ・ラーニング支援事業」として平成24年度中に学内経費要求案を作成

■ ラーニング・コモンズ：具体化へ

- 予算要求案のコンセプト

- ✓ 本学中期目標(自学自習環境の整備), 中教審答申(H24.3), 学生からの要望(会話可能スペース, 静寂スペース)
- ✓ 他大学における環境整備の進行
- ✓ 「アクティブ・ラーニング・エリア」及び「サイレント・エリア」の整備

- 予算化から協働による検討体制へ

- ✓ 学生意見の取り込みを企図
- ✓ 京都大学学術情報メディアセンター「コンテンツ作成協同研究」へ応募
- ✓ 京都大学デザイン学大学院連携プログラム FBL/PBL「学習環境のデザイン」とリンク

■ ラーニング・コモンズ：協働による検討

- 図書館側で基本コンセプトの設定
 - ✓ グループワーク、ディスカッション、プレゼン等を行なえる空間
 - ✓ 利用者間の交流や相互作用による学びを促す空間
 - ✓ 図書館の資料やサービスを活かした学びへ接続する空間
 - ✓ その他：エリア内機能区分，備える機器，運用ポリシー等
- 空間デザイン，什器選定等に対する提案の実現
 - ✓ 現地調査・ヒヤリング → コンセプトの摺り合わせ
→ オーソライズ → 施工・購入
 - ✓ 木製造作物「クスノキ」設置，壁面書架リノベーション，
新規購入椅子の選定，既存机・椅子の活用
 - ✓ 「学びの実験場」というコンセプトの創出

■ ラーニング・コモンズ：オープン後の展開

● 活用プランの検討

- ✓ 館内ゾーニングワーキング体制での検討
- ✓ イベント等の実施（場の性格付け、認知度向上）
若手研究者によるレクチャーシリーズ,
学習サポートデスクスタッフによるレクチャーシリーズ,
京都大学学術出版会との共催による読者会シリーズ 等
- ✓ ラーニング・コモンズ空間の活用検討会（ユーザとのつながり）

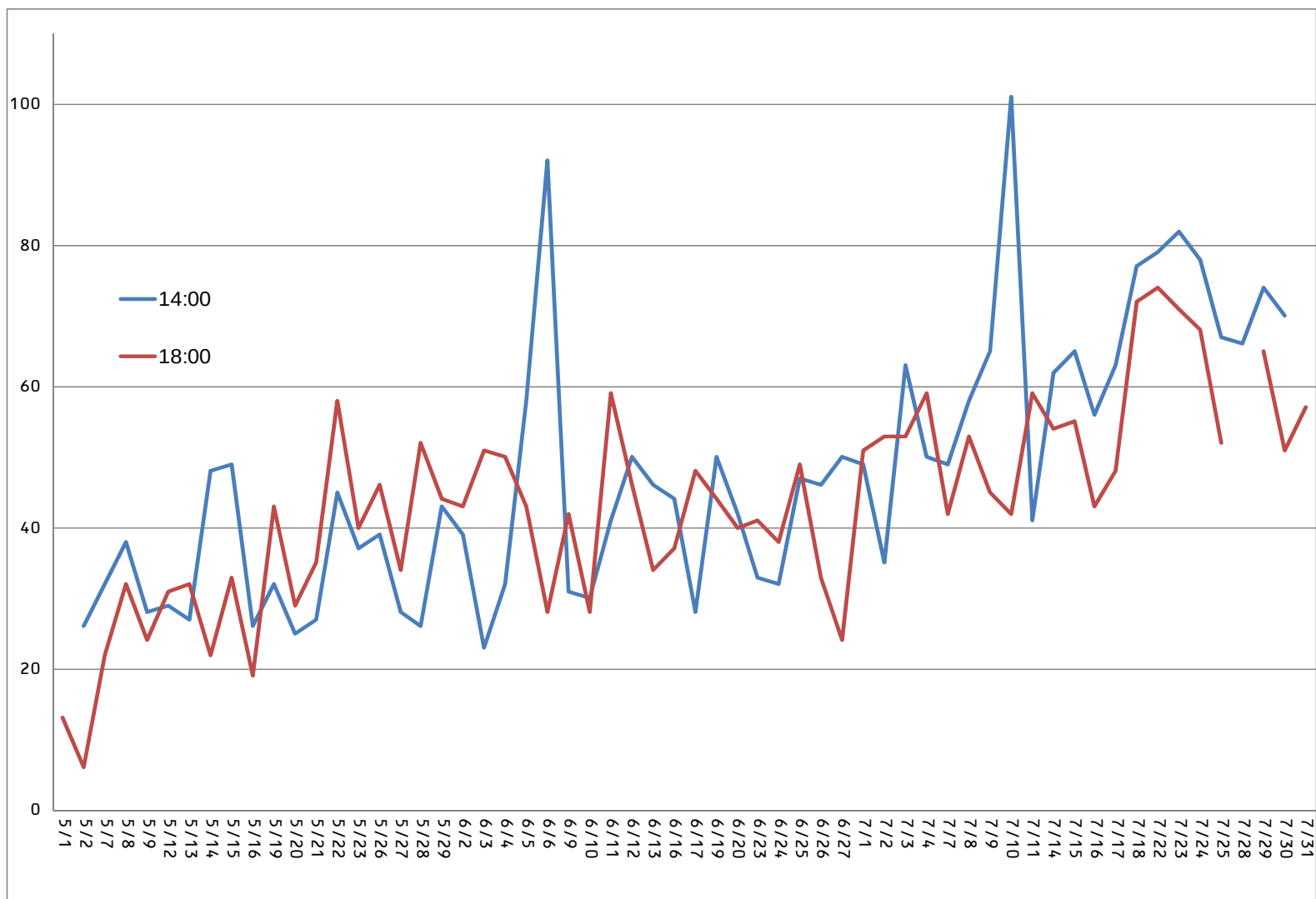
● あらたな展開へ

- ✓ 利用の定着と学内での図書館への注目
- ✓ さらなる館内改修の実現
- ✓ デザインスクールFBL/PBLのフィールド
- ✓ URAとの連携：KURAデスク&KURAワークショップ





■ ラーニング・コモンズ在室者数











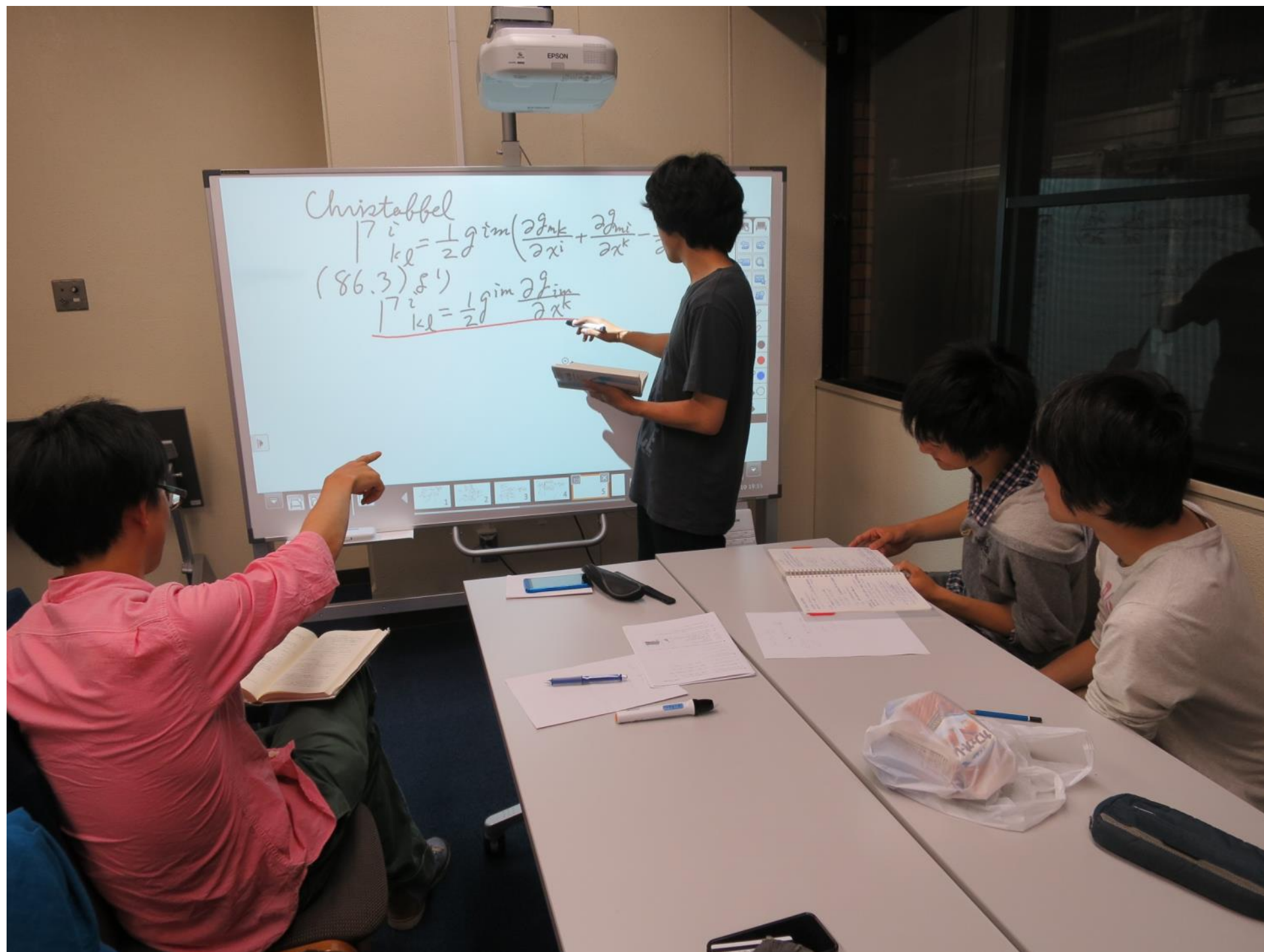
■ ラーニング・コモンズの利用状況

- 利用者インタビューから
 - ✓ 利用方法
 - ✓ 利用目的
 - ✓ 要望

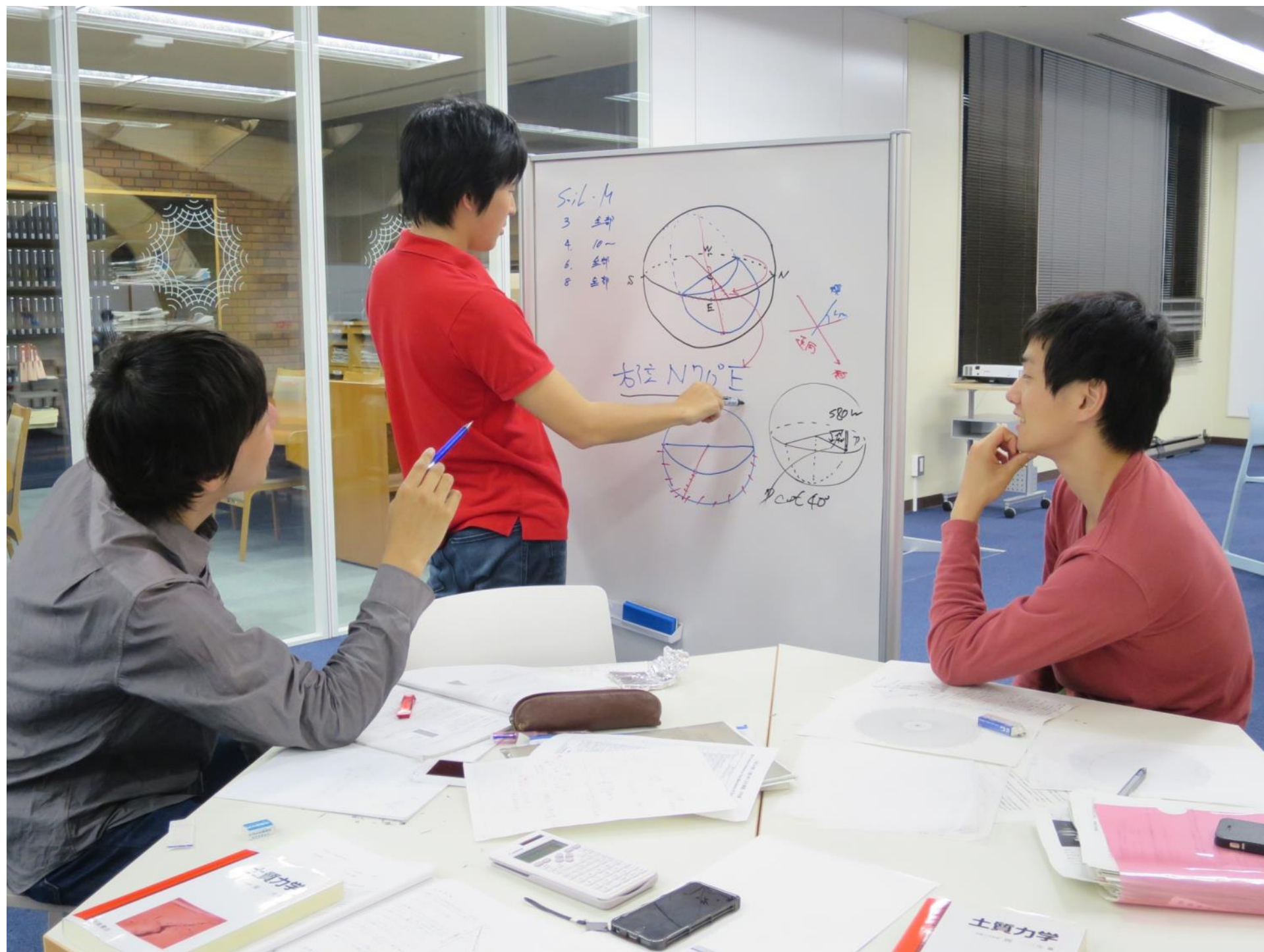
















■ ラーニング・コモンズを巡る論点

- 図書館機能との接続性
- 利用者間の関係性
- 「図書館」の変化のコア



ありがとうございました